

標尺 m	層厚 m	深度 m	柱状 図	土質 区分	色相 対密 稠度	相対 稠度	記 事	粒度試験による土質区分	標準貫入試験				原位置試験 深度 m	試験名 及び結果	試料採取 深度 m	採取 方法	掘 進 月 日
									深 度 m	10cm毎の 打撃回数		N 値					
										0	10						
1				盛土	褐		粘性土を主体とする盛土であり、不均一な間隔及び量でφ100mm迄の礫及び玉石の混入が観られる。層全体に中～高位の含水を帯びた状態であり、特に層上位では緩い状態である。		1.15	1	1	2		1.15			
2				盛土	暗灰		GL-2.35m付近よりφ2mm程度のスコリア粒を主体とした状態であり、僅かに粘性を帯びる。		1.45	1	1	3		1.45			
3				盛土	暗灰		GL-4.00m付近において金属片の混入が観られ、φ100mm大の玉石及び礫の混入が観られる。全体に崩壊性の高い状態である。		2.15	1	1	5					
4				盛土	暗灰		GL-4.00m付近において金属片の混入が観られ、φ100mm大の玉石及び礫の混入が観られる。全体に崩壊性の高い状態である。		2.45	1	1	5					
5	-5.17	5.20	5.20						3.15	5	5	10					
6				礫混じり細砂	褐		φ5~10mm大の礫及びφ50~100mm大の円礫が30%程度混入する。極少量中砂の混入する細砂が主体である。層全体に含水を帯びた状態である。		3.45	5	5	10					
7	-7.72	2.05	7.25						4.15	24	19	7		6.00			
8				礫混じり粗砂	褐		φ5~10mm大の礫を30%程度混入する粗砂を主体とする。層上位ではφ50~150mm大の礫の混入が観られる。層全体に崩壊性の高い状態である。		4.40	24	19	7		6.50			
9	-9.02	1.80	9.05						4.45	24	19	7					
10				細砂	暗褐		均質な砂粒子の細砂を主体とする。少量であるもののφ10mm未満の礫及びφ100~150mmの玉石の混入が観られる。		5.15	3	5	5					
11	-10.62	1.60	10.65						5.45	3	5	5					
12				砂礫	暗灰		φ100~200mm大の礫及び玉石を主体とする。礫間には粗砂～細砂、及び僅かに粘土を混入し密な状態であるものの崩壊性の高い状態である。		6.15	5	5	12					
13				砂礫	褐		GL-13m迄ケーシングチューブ挿入		6.45	5	5	12					
14	-14.57	3.95	14.60						7.15	5	45	50					
15				礫混じり粗砂	褐		φ2mm未満の粗砂を主体とし、細礫及びφ30~50mm大の円礫を層全体の40%程度混入する。層全体に高い含水を帯びる。		7.28	5	45	50					
16	-16.67	2.10	16.70						8.15	6	4	4					
17				シルト質細砂	暗灰		中位の含水で層全体にシルトを帯びた状態の細砂である。φ10mm未満の角礫を少量混入し、有機物(木片)及び貝殻片の混入する箇所が3cm程度の薄層状に観られる。		8.45	6	4	4					
18	-18.77	2.10	18.80						9.15	5	7	7					
19				砂礫	暗灰		φ20~40mm大の円礫及び角礫が不均質に混入する状態で礫間には粗砂を主体とする砂礫である。層全体に送水量の20%程度逸水が観られる。		9.45	5	7	7					
20				砂礫	暗灰				10.15	6	7	6					
21				砂礫	暗灰				10.45	6	7	6					
22				砂礫	暗灰				11.00	貫入不能	50	0					
23	-23.17	4.40	23.20						12.00	貫入不能	50	0					
24				中砂	暗灰		層全体に均質な状態の中砂であり、中位程度の含水を帯びる。		13.07	貫入不能	50	0					
25				中砂	暗灰		GL-25m付近で10~15cm程度の層厚で砂礫を混入する。		14.00	50	3	3					
26	-26.77	3.60	26.80						14.03	50	3	3					
27				シルト混じり細砂	暗灰		粘性及び含水共に中位の細砂を主体に、有機物(木片)及び貝殻の混入が観られる。所々で固結した状態のシルトの混入が観られる。		15.15	5	4	4					
28	-28.22	1.45	28.25						15.45	5	4	4					
29	-28.62	0.40	28.65						16.15	4	3	3					
30	-29.67	1.05	29.70						16.45	4	3	3					
31				中砂	暗灰		φ2~100mmの円礫を層全体の20%程度混入する中砂である。φ10mm未満の礫を少量混入し、ブロック状のシルトを層全体の20%程度混入する中砂である。全体に高い含水を帯び、粘性は中位~高位である。		17.15	5	4	4					
32	-31.87	2.20	31.90						17.45	5	4	4					
33	-32.77	0.90	32.80						18.15	3	4	4					
34	-33.47	0.70	33.50						18.45	3	4	4					
35	-36.27	1.80	36.30						19.15	8	6	8					
36				砂礫	暗青灰		φ2~50mm大の円礫を20%程度混入する中砂である。含水は中位で粘性は僅かに帯びる状態である。		19.45	8	6	8					
37	-36.77	1.50	36.80						20.15	8	9	9					
38	-38.77	2.00	38.80						20.45	8	9	9					
39	-38.47	0.70	39.50						21.15	7	10	18					
40				中砂	暗灰・青灰		少量の中砂を不均質に混入する状態の細砂である。また、ブロック状のシルト及びφ10~30mm大の礫を極少量混入する。		21.45	7	10	18					
41	-41.07	1.60	41.10						22.15	5	12	16					
42				砂礫	暗青灰		φ3~30mm大の円礫を層全体の40%程度混入する粗砂である。含水は高く、粘性は低位である。粘性を有すシルトを層全体に帯びた状態の細砂であり、φ10mm未満の礫を少量混入する。深度を増すに従い含水比・粘性共に高くなる状態である。		22.45	5	12	16					
43				砂礫	暗青灰		φ5mm程度の礫を主体に、φ10~60mm大の礫及びφ200mm大の転石を不均質に混入する状態である。礫間にはマトリックス状に粗砂及び少量の粘性土を混入する。層全体にやや崩壊性を有す。少量の細砂を不均質に混入する状態のシルトである。僅かであるが有機物(木片)の混入が観られる。含水は中位で、深度を増すに従い粘性・含水共に高くなり、砂の混入が低下する。		23.15	8	5	5					
				砂礫	暗青灰		粘性・含水共に中位の固結した凝灰質を成す中砂である。少量であるがφ5~30mm大の円礫を混入する。混入礫は指圧により容易に破砕可能な状態のものを含む。φ5~20mm大の礫を主体にφ100~200mm大の玉石を層全体の30%程度混入する。マトリックス状に固結した状態の上位層と同様の中砂を混入し、層全体に非常に密な状態である。		23.45	8	5	5					